

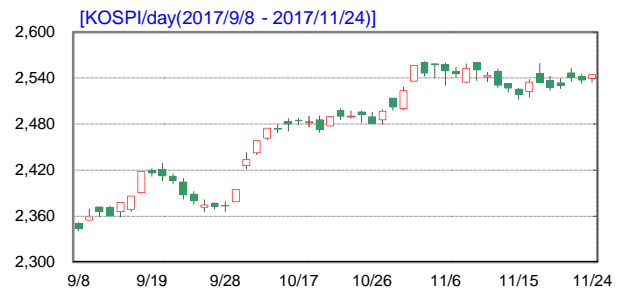


【韓国】 総合指数は週間で0.4%高と3週ぶりに反発、主力株に買い戻し

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.4%高と3週ぶりに反発。欧米やアジアの主要株式市場の変動を受けた狭いレンジでの値動きとなり、方向感に乏しかった。前週まで下落が目立った主力株が買い戻されて相場を下支えした。株式相場の上昇を好感する買いがハイテク株を中心に入った。週末24日の終値は2544.33ポイントと9日以来ほぼ2週間ぶりの高値を付け、週間ペースで小幅ながら上昇した。ただ、22日の取引時間中に2553.22ポイントまで上昇したものの、前週末の高値(2559.10ポイント)は上抜けずに終わった。大型株では、半導体のSKハイニックス、現代自動車、LG化学、鉄鋼のポスコ、ITのネイバーがそろって上昇。半面、時価総額が最大のサムスン電子が逆行安となった。小売りのロッテショッピングもさえない。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で3.0%高と反発、今週も原油相場次第で上昇持続か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で3.0%高と反発。週初こそマイナス圏での取引となったが、週中から原油価格が上昇に転じると連れ高となり、反発した。週明けは軟調な原油相場と弱い経済指標を受けマイナス圏での取引。10月の失業率は予想通り5.1%(前回:5.0%)だったが、10月の小売売上高が前年同月比3.0%増と市場予想の3.9%増と前回の3.1%増を下回った。週央以降はブレント原油価格がカナダ・米国間のパイプラインの原油漏れ事故の影響やOPECとロシアが2018年末まで減産延長に合意したとの報道で63ドル台後半まで反発したことを受け、RTS 指数はじり高の展開。24日に1166.85ドルまで上値を伸ばし、前日比0.6%高の1166.09ドルで週の取引を終了した。今週も原油相場の堅調が続けば、上昇基調が続くか。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は5.0%高と8週続伸 RSIは89%、スピード調整に要警戒

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.0%高と8週続伸。主力銘柄が堅調で、指数をけん引した。投資家心理の好転が続き、時価総額上位の銘柄に買いが集まった。指数は週明け20日の序盤にマイナス圏に沈んだが、すぐにプラス圏に浮上し、週末まで5日続伸。23日には2007年12月以来となる943.15ポイントまで上昇した。24日は前場に利益確定売りに押されてマイナス圏で推移したが、後場に切り返し、前日比0.2%高の935.57ポイントで取引を終了した。個別では海外ロードショーの日程が明らかになったサイゴンビールが13.9%高、6日に新規上場したビンコムリテールが13.5%高と指数をけん引。大手3行が預金金利を引き上げたことで銀行株も軒並み高となった。この結果、RSIは89%を超えており、今週はスピード調整に警戒が必要。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.3%高、22 日に終値ベースで過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.3%高と続伸。国内の重要イベントが少ない中、一進一退を繰り返した 1 週間だった。週初の 20 日は場中に一時、6100 ポイント目前まで上昇し、終値でも 3 営業日続伸。21 日は反落したが、22 日は前日の NY ダウが続伸した流れで買い優勢となり、終値ベースで約 2 週間ぶりに過去最高値を更新した。今週も国内の経済指標の発表が少なく、米国の 7-9 月期の GDP 改定値や中国の 11 月の製造業 PMI が市場予想から上振れすれば好材料。前週末に約 2 年 5 か月ぶりの高値を付けた NY 原油先物相場の動向も注目される。1 日はマウリッド・ナビ（モハメッド降誕祭）のため休場。

▼指数チャート

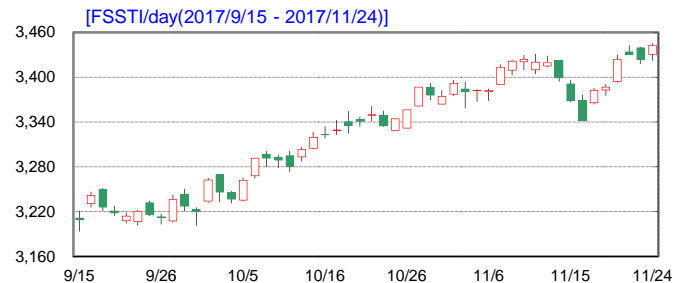


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.8%高、今週は 11 月の製造業 PMI に注目

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.8%高と反発。前週の反動で堅調な値動きが続いた。週前半は 7-9 月期の GDP 確定値発表を 23 日に控え、市場で速報値を上回るとの見方が広がったことを受けてじりじりと上昇し、指数は 22 日まで 4 営業日続伸。ただ、23 日は GDP 成長率が 5.2%と速報値の 4.6%から上振れしたことが好感された一方で、金融政策引き締めに対する懸念が重しとなり小幅に反落した。24 日は 10 月の鉱工業生産が前年同月比 14.6%増と 2 桁成長を維持したことを受け、反発して取引を終了。今週は 1 日に 11 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 52.6 を上回れば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.8%安、7-9 月期の GDP 成長率は 4 年半ぶりの高水準

SET 指数は週間で 0.8%安と反落。週後半の下落が響いた。週初の 20 日は 7-9 月期の GDP 成長率が前年同期比 4.3%と 4 年半ぶりの高水準に達したことが好感されて、指数は 3 営業日続伸。21 日は反落したものの、22 日は 10 月の輸出（通関ベース）が、為替相場で米ドルに対するバーツ高が逆風となる中、前年同月比 13.1%増と 2 桁の伸びを維持したことを受けて買い戻された。ただ、その後は軟調で 24 日は終値で 6 営業日ぶりに 1700 ポイントを割り込んで取引を終えた。今週は 30 日に 10 月の鉱工業生産と 9 月の小売売上高、1 日に 11 月の CPI が発表される予定で、内容に対する市場の反応が焦点になる。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%安、約 9 カ月ぶりの安値を更新

クアラルンプール総合指数は週間で 0.3%安と続落。小幅な値動きに終始した。週初の 20 日は、前週末に中国人民銀行（中央銀行）が資産運用業務に関する規制強化のガイドラインを公表したことなどを受け、中国市場の株価が下落した影響で指数は反落。一方、21 日は米ドルに対しリングが約 1 年ぶりの高値を付けた効果で買われると、22 日は原油の値上がりで好感されて続伸した。ただ、週後半はパーム粗油価格の下落や、総選挙時期に関する不確実性を背景に続落し、24 日は終値で約 9 カ月ぶりの安値を更新して引けた。今週は 1 日に 11 月の日経 PMI が発表される予定。同日はムハンマド生誕祭で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。